

保護者の皆さまへ

吹田市立千里新田小学校
校長 宮本 和彦

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果の分析について

本年度、6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、今年度は3年ぶりに国語と算数と理科で実施しました。測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

【報告の中の矢印は全国平均との関係を表している】

全国の正答率を上回る	↑
全国の正答率をやや上回る	↗
全国の正答率とほぼ同じ	→
全国の正答率をやや下回る	↘
全国の正答率を下回る	↓

1 教科に関する調査の分析

●国語《各領域における成果と課題、指導のポイント》

話すこと・聞くこと



全国の平均正答率とほぼ同じ結果であった。

しかし、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題が見られた。

書くこと



全国の平均正答率をやや下回る結果であった。

互いの書いた文章を読み合い、具体的に感想や意見を伝え合うことを通して、よさを見つけたり、よさを言葉に表したりすることに課題が見られた。また、記述式になると無回答率が高くなる傾向が見られた。

読むこと



ほぼ全ての設問において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。しかし、物語の全体像と関わらせながら、表現の効果を考えることに課題が見られた。全国に比べて、表現の効果が読み取れず無回答率が高くなる傾向が見られた。

言語事項



全国の平均正答率とほぼ同じ結果であった。

しかし、既習漢字を問われる設問に課題が見られた。

《児童質問紙（国語に関する項目）より》

「国語の勉強は好き」に対する肯定的な回答は約5割、「国語の勉強は大切」では約8割5分、「内容はよく分かる」では約8割、「社会で役立つ」では約8割5分で、それぞれ全国平均を下回っていた。

◇指導改善のポイント

- ・語彙力に乏しく、発問の意図を読み取ったり自分の考えを表現したりすることが苦手であるため、例やテンプレートを示し見通しを持って考えを表現する機会を増やす。
- ・熟語の意味を調べ、繰り返し復習することを習慣化する。

●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算 知識・技能 ↗ 思考・判断・表現 ↗

知識・技能：ほぼ全ての設問において、全国の平均正答率をやや上回る結果であった。

思考・判断・表現：ほぼ全ての設問において、全国の平均正答率をやや上回る結果であったが、問題場面の数量の関係に着目して除法の式の表す意味を解釈し、表現することに課題が見られた。

図形 知識・技能 ↘ 思考・判断・表現 ↘

知識・技能：ほぼ全ての設問において、全国の平均正答率をやや下回る結果であった。特に図形を構成する要素に着目して、作図の仕方を筋道立てて考えることに課題が見られた。

思考・判断・表現：全ての設問において、全国の平均正答率をやや下回る結果であった。

変化と関係 知識・技能 ↗ 思考・判断・表現 ↑

知識・技能：ほぼ全ての設問において、全国の平均正答率をやや上回る結果であったが、日常生活の場面において、数量が変わっても、割合が変わらない場合があることを理解する問題では課題が見られた。

思考・判断・表現：全ての設問において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

データの活用 知識・技能 → 思考・判断・表現 ↑

知識・技能：全ての設問において、全国の平均正答率とほぼ同じ結果であったが、目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることに課題が見られた。

思考・判断・表現：全ての設問において、全国の平均正答率を上回る結果であった。

《児童質問紙（算数に関する項目）より》

「公式やきまりのわけを理解するようにしている」に対する肯定的な回答では約8割5分で全国平均をやや上回っていた。

「社会で役に立つ」に対する肯定的な回答では約9割、「算数の勉強は大切」では約9割、「算数の勉強は好き」では約6割で全国平均をやや下回っていた。

「内容はよく分かる」に対する肯定的な回答では約7割5分、「普段の生活の中で活用できないか考える」では約6割、「問題の解き方が分からないときには、あきらめずにいろいろな方法を考える」と「もっと簡単に解く方法がないか考える」では約7割で、それぞれ全国平均を下回っていた。

◇指導改善のポイント

- ・単に計算の仕方を覚えて習熟に力を入れるだけでなく、図や式、言葉などの決められた条件を選び出し、求め方を文に表す機会を増やす。
- ・問題提示をする際に、問題の状況を示す（〇さんは買い物に行きました）など、児童の生活経験を想起できるような工夫を行う。また、聞き手を意識しながら自分の考えを説明したり、友

達の考えを理解したりしながら、学級全体で学び合う授業を展開していく。

- ・ 日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式を用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるようにする。

●理科《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

エネルギー

知識・技能→ 思考・判断・表現↘

知識・技能 : 全国の平均正答率とほぼ同じ結果であった。

思考・判断・表現 : 全ての設問において、全国の平均正答率をやや下回る結果であった。実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに、課題が見られた。

粒子

知識・技能↗ 思考・判断・表現→

知識・技能 : 全ての設問において、全国の平均正答率をやや上回る結果であった。

思考・判断・表現 : 全国の平均正答率とほぼ同じ結果であった。

生命

知識・技能↑ 思考・判断・表現↘

知識・技能 : 全ての設問において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

思考・判断・表現 : 全ての設問において、全国の平均正答率をやや下回る結果であった。自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述することに、課題が見られた。

地球

知識・技能↘ 思考・判断・表現→

知識・技能 : 全ての設問において、全国の平均正答率をやや下回る結果であった。「水が水蒸気になって空気中に含まれていること」などの知識を日常生活に関連付けて理解することに、課題が見られた。

思考・判断・表現 : 全国の平均正答率とほぼ同じ結果であった。

《児童質問紙（理科に関する項目）より》

「理科や科学技術に関係する職業に就きたい」に対する肯定的な回答は約3割で全国平均をやや上回っていた。

「観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考える」に対する肯定的な回答は約8割5分で全国平均とほぼ同じであった。

「理科の勉強は好き」に対する肯定的な回答は約7割、「理科の勉強は大切」では約8割、「内容はよくわかる」では約8割5分、「普段の生活の中で活用できないか考える」では約6割、「社会で役に立つ」では約6割5分、「予想をもとに計画を立てる」では約7割、「実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返る」では約6割でそれぞれ全国平均を下回っていた。

◇指導改善のポイント

- ・ 「水が水蒸気になって空気中にふくまれていること」など、知識をより深く理解するために、主体的な問題解決を通して知識を習得し、その学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直すような活動にも取り組む。
- ・ 観察・実験を行う際には、その「予想」、「観察・実験」、「結果」、「考察」、「結論」を、筋道を立てて考え、ノート等にまとめる活動を今後とも進めていく。またその際には、より妥当な考えを構築するために、複数の実験を計画しその結果をもとに分析・考察したり、それらを適切に文章で表現したりするような活動にも引き続き取り組む。

2. 生活習慣や学校環境等に関する調査結果の分析

自分自身のこと

肯定的な回答は昨年より増えて、「自分には良いところがある」約8割、「自分で決めたことはやり遂げる」約9割、「失敗を恐れなくて挑戦する」約7割で、全国平均と同じであった。「人の役に立つ人間になりたい」は約9割5分で、「困っている人を進んで助ける」約8割5分で全国平均をやや下回り、「夢や目標を持っている」7割で下回っている。

家庭生活・地域生活について

家庭生活については「朝食を毎日食べる」は肯定的な回答が約9割5分で全国平均をやや上回り、「毎日同じ時刻に起きる」は約8割5分でやや下回り、「毎日同じ時刻に寝る」は約7割5分で下回っている。

「本が家に100冊以上ある」は約4割5分で全国平均を上回り、「1日30分以上読書をする」は約3割5分で同じ、「家庭学習を30分以上している」約8割「自分で計画を立てて勉強している」は約6割で下回っている。

「スマホやPCの使い方について約束を守っている」は約9割で全国平均をやや上回っている。「ゲームの1日2時間以上」約5割「動画視聴1日2時間以上」約3割で全国平均をやや下回っている。

「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」は約4割5分でやや下回っている。

学校生活・学習について

「学校にいる大人に相談できる」は7割、「友達と協力するのは楽しい」約9割で全国平均と同じである。「いじめはどんな理由があってもいけない」は約9割5分、「先生は良いところを認めてくれる」は約8割5分で全国平均をやや下回っている。

「学校に行くのは楽しい」約6割5分「自分と違う意見について考えるのは楽しい」約5割5分で全国平均を下回っている。

ICTについて、「授業でICT機器を週3回以上使用した」は約7割5分で全国平均を上回っている。「学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、ICT機器を使用している」は約6割が週一回以上は使用していると回答し、全国平均を上回っている。「学校で自分の考えをまとめ、発表する場面でICT機器を使用している」は約4割5分、「ICT機器を使うのは勉強の役に立つ」は約9割で全国平均とほぼ同じである。

「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した」は約7割で全国平均を上回っている。

「自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行った」は約7割、「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んだ」は約8割で、全国平均とほぼ同じであった。

「各教科で学んだことを生かして、自分の考えをまとめた」は約7割で全国平均をやや下回っている。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組めた」は約7割、「自分にあった教え方、教材、学習時間だった」は約7割、「話し合い活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」は約7割、「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた」は約7割、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」は約6割5分、「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」は約6割5分、「学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」は約6割5分でいずれも全国平均を下回っている。

☆今後の指導について

- ・社会や日常生活の課題と関連付けた教育活動を通して、日々の学びが社会の仕組みとどのように関連しているのかについて興味・関心を持つ機会を設けていく。
- ・児童が身に付けるべき資質・能力を育むための効果的なICTの活用の在り方を考えていく。児童がICT等の正しい使い方について考えられるよう、デジタル・シティズンシップ教育の取り組みを保護者と共に進めていく。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」との認識が一層高まるよう、いじめ予防授業を通して相手の立場に立って考えることやシンキングエラーやアンバランスパワー等のいじめが深刻化するキーワードについて理解を深めていく。
- ・話し合う活動に積極的に取り組むことによって自分の考えを深めたり広げたりすることができるように指導していく。自分とは異なる意見に対して考え、議論する機会を持ち、違った意見を認め合える環境づくりをしていく。また、自学自習等を通して主体的に取り組む力を育成していく。

子供たちが、授業の中で輝き、夢を持って生きていくために

校長 宮本 和彦

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果集計及びその分析が終わりました。結果分析の詳細は、この私の文面に至るまでにお読みいただいたかと思しますので、ここでは大きく二つの視点で綴りたいと思います。

一つめ。子供たちの学習について。本調査の教科の点数結果については国語も算数も「よくできました」と言えると思います。ただ、ちょっと気になるのは、児童質問紙中の「国語の勉強は好き」に対する肯定的回答は約5割、「算数の勉強は好き」は約6割という数字です。きっと教科の取り組みの中で、さらに“満足感”や“達成感”が味わえれば、「好き」の数字はもっと伸びるのではないかと思います。子供たちが“満足感”や“達成感”を味わうためにどうすればいいのか……勿論、自身の興味・関心から自学自習によって高めていくことも大切なことだと思いますが、私は授業での取り組みが大変重要になってくると考えます。授業の中で、分かった、できた、気付いた、発見した……という思いに至った時、子供たちはきっと“満足感”や“達成感”を味わうと思います。そのために我々教職員は、今後もより良い授業づくりの研究を進めてまいります。また、しっかり発表できた、みんながちゃんと聴いてくれた……という思いに至った時にも同様だと思われれます。そのためには学級のみならず発表者の意見などをちゃんと聴けることが大切で、そんな学級づくりを子供たちと教職員で進めてまいります。併せて、素敵なノートづくりも“満足感”や“達成感”につながる、大切なことだと思います。子供たちのオリジナリティにも期待します。

二つめ。子供たちの自己肯定感や夢について。児童質問紙中の「自分には良いところがある」の肯定的回答は約8割、「夢や目標を持っている」は約7割という数字です。授業中一生懸命頑張っている姿がたくさん見られ、運動会などの行事では一生懸命頑張る姿がたくさん見られ、休み時間には楽しそうに遊ぶ姿がたくさん見られ、委員会や係の活動を一生懸命頑張っている姿がたくさん見られ……一方で、自分に自信がなかったり自分の将来への夢を持っていなかったりする子が少なからずいる、と改めて考えてしまいます。周りの大人が、子供たちのできていることをできていると、ちゃんと言葉で伝えることが大切で、自分に自信を持った子はそこから夢を育むかもしれません。また、大人が子供たちに夢を語ることも大切なことだと思います。

様々なことが難しい世の中かもしれませんが、子供たちをしっかりと見守り、しっかりと支え、しっかりと鍛える中で、逞しい子供たちに育ててほしいなと、改めて願う次第です。